

APLA

あいち防災リーダー会

20年間の歩み



(令和4年度愛知県防災安全局長表敬訪問)

(2) あいち防災リーダー10周年をふりかえり

初代会長 太田貴代子
 早いもので、あいち防災リーダー会が設立して10周年が過ぎています。平成14年に愛知県主催の防災カレッジが開催され、12日間という長丁場に他の予定を外しせっせとウエルあいちへ向かった。会場は250名の受講者で、身動きも出来ないぐらいのざっしりの中、よく頑張って受講したという思い出です。幹事松田担当者から、「お楽しみ会の様な会を作りましょう」との声に各地域から自主的な手を挙げ集まり、お楽しみ会の予定が一変して防災リーダー会の設立に向けて動き出してきました。

平成15年6月22日、ウエルあいちで設立総会を開催し、名古屋大学大学院福和伸夫教授にリーダー会の参与をお願いしました。APLA通信の「よもやま話」への寄稿が始まりました。

APLA通信のロゴにはNPO愛知ネットの岡坂さんの協力で東浦町の磯村さんとちと幾度か会議をする中で出来上がりました。



愛知県神田知事への表敬訪問
 平成15年10月3日

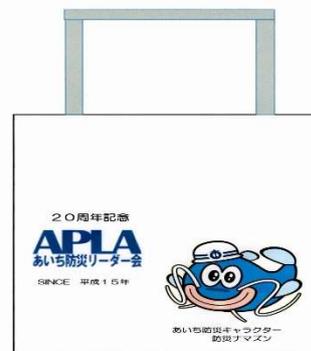


名古屋大学にて愛蔵誌の出版

APLA
 Aichi 「あいち」
 Preparation 「準備する」準備する
 Leader 「リーダー」
 Association 「組織」

この会談の議事録がありました。

神田知事も読んで、各ブロック代表を



APLA10年の歩みから (初代会長太田貴代子様寄稿)

APLA20周年記念トートバック (見本)

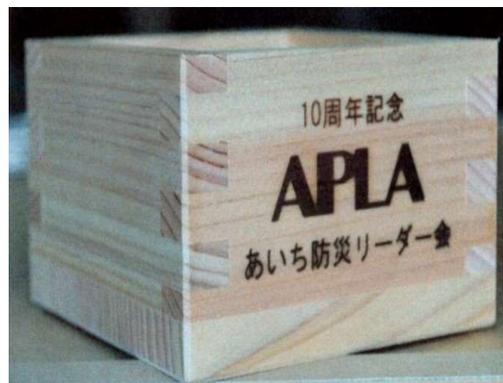
「APLA20年間の歩み」目次

APLA
あいち防災リーダー会

10年間の歩み



平成24年度防災担当大臣表彰式（10頁記事掲載）



（令和25年APLA結成10年にて発行）

[1] 平成25年度からの歴代本部役員名簿

[2] 歴代会長の思い出

- (1) 第2代目会長（平成25年度）早川 澄男
～共に学び合いながら“啓発と伝承”の6年間～
- (2) 第3代目会長（平成26・27年度）青木 八束
～三代目会長当時平成26年・27年頃を省みて～
第4代目会長（平成28・29年度）尾関 博
- (3) 第5代目会長（平成30年度・令和元年度）藤井芳宏
～任期中記憶に残ったイベント～
- (4) 第6代目会長（令和2年度・令和3年度）岡田 公夫
～Covid-19まん延のなか 6代目会長として振り返る～
- (5) 第7代目会長（令和4年度・令和5年度）原 真理
～あいち防災リーダー会（APLA）20周年を迎えて～

[3] 平成25年度～令和4年度を振り返る

[1] 平成25年度からの歴代本部役員名簿

		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		11期	12期	13期	14期	15期	16期	17期	18期	19期	20期	21期
会 長		早川澄男	青木八束	青木八束	尾関 博	尾関 博	藤井芳宏	藤井芳宏	岡田公夫	岡田公夫	原 真理	原 真理
副 会 長	名古屋B代表	田中由幸	田中由幸	田中由幸	田中由幸	田中由幸	田中由幸	野村昭雄	野村昭男	野村昭男	野村昭男	野村昭男
	東尾張B代表	青木八束	—	—	青木八束	青木八束	青木八束	加藤千恵子	加藤千恵子	加藤千恵子	水戸部茂樹	水戸部茂樹
	西尾張B代表	尾関 博	尾関 博	尾関 博	—	石垣辰夫	石垣辰夫	石垣辰夫	石垣辰夫	尾関 博	尾関 博	尾関 博
	海部B代表	七條紀雄	七條紀雄	七條紀雄	藤井芳宏	藤井芳宏	水谷正司	河津博史	河津博史	河津博史	河津博史	河津博史
	知多B代表	櫻井 衛	櫻井 衛	櫻井 衛	原 真理	原 真理	棚野祐三	棚野祐三	棚野祐三	棚野祐三	坂川 勇	坂川 勇
	三河B代表	蜂須賀博英	蜂須賀博英	蜂須賀博英	蜂須賀博英	岡田公夫	岡田公夫	岡田公夫	加藤一重	加藤一重	岡田公夫	岡田公夫
事務局長		丸山 豊	河村文雄	河村文雄	河村文雄	河村文雄	河村文雄	河村文雄	河村文雄	河村文雄	河村文雄	河村文雄
会 計		安田裕典	安田裕典	内藤尚仁	内藤尚仁	内藤尚仁	内藤尚仁	内藤尚仁	内藤尚仁	内藤尚仁	内藤尚仁	内藤尚仁
広報部長		藤井芳宏	藤井芳宏	葛岡則章	野村昭男	野村昭男	河村文雄	田中由幸	原 真理	原 真理	則竹康伸	則竹康伸
研修部長		原田先夫	原田先夫	原田先夫	藤井勝久	佐藤宜一	佐藤宜一	佐藤宜一	伊藤 勲	伊藤 勲	伊藤 勲	伊藤 勲
啓発本部長					早川 澄男	早川 澄男	早川 澄男					
啓発部長								尾関 博	岡田公夫	岡田公夫	岡田公夫	岡田公夫
渉外部長		鳥山一三	—	—	藤井芳宏	藤井芳宏	尾関 博	青木八束	藤井芳宏	藤井芳宏	藤井芳宏	藤井芳宏
会計監査		村上宏子	三輪勤子	竹山金五	小笠原裕尚	坂川 勇	青山虎子	佐藤成男	竹内良平	斉藤隆彦	山口まさ子	高橋芳江
監 査		藤野昌之	加藤西弘	藤野昌之	石河和子	黒田禮子	小笠原裕尚	原 真理	堀内直子	佐藤成男	竹内亮平	斉藤隆彦
相談役		—	早川澄男	早川澄男	—	—	—	早川澄男	青木/尾関	青木八束	青木八束	青木八束

[2] 歴代会長の思い出

(1) 共に学び合いながら “啓発と伝承” の6年間

2代目会長 早川澄男

退職後何するかと問われボランティア活動でもと思い防災カレッジを受講。太田会長との出会いから連れ込まれ、先輩諸氏からの厳しい激励から、APLA 研修部副部長から出発！

「研修部が企画指揮と会員のレベルアップ教育をすべし」と活を頂戴しました。研修企画を推進する上で“知恵と工夫”の必要性に気づかせていただいたのが名古屋の W さん。機会あるごとに学び取り、オリジナル性や工夫を加味して、“早川オリジナル啓発手法・技法”を作り上げ研修や啓発に活かしてきました。今も目標にしている先輩です。

“一泊研修の旅”を16年続けてこれたのも第1回目の企画を名古屋のEさんが起案していただいたお陰、バス内研修でTさんからエッキー君(液状化)を学び啓発道具に加えることができました。そろばんを家屋が建つ地盤代わりにして動かす(揺れ)と家屋や電柱が液状化で倒壊する模型を制作して展開。また消防学校で学んだロープワークも即、講師役をやらせて頂きました。学んだら即、講師として実践、指導力を磨くことが大切であることに気づかされました。

平成16年あいち防災フェスタが刈谷市で開催され、太田会長のミニチュア家具転倒模型で啓発、福和先生も来場され好評価を得ました。翌年豊橋の開催では、APLAもブース出展。

いろいろと展示されている防災グッズを観て、枕もとの防災グッズ、非常持ち出し品30点、阪神大震災から学ぶ”ボランティアが考えた30点”等をパネル化してそれ以降の防災グッズ啓発に取り入れました。現在も活用できる基本グッズとさらに100円均一で揃える防災グッズ等へと展開と広げてゆきました。私の”あいぼう”の鳥山さんは、福和先生から“ぶるるの耐震化教材の貸出しと啓発指導隊長”に任命され、名大でスタートしたボランティアが企画する”防災フェスタ”で早川が制作したタンスぶるると液状化でコンビを組み、APLA旗を掲げ、防災ナマズンの塗り絵も取り込み、防災ナマズン飴・風船での啓発は、海部のIさんのアイデアから採用しました。その勢いで第2回目防災フェスタを港区役所で開催。APLA旗をはためかせた。企画・運営と啓発道具作りを通じ、一緒に行動を共(友)にした鳥山さんは、名大減災アカデミーの窓口対応をはじめ、気象台、国交省等の行政からの情報や啓発ポスター・パネル、チラシ、教本、DVD等の防災の武器や弾薬を運んでくれました。また1泊研修の旅も企画提案と先方との折衝をいただき貴重な場所(長野県地震観測所、国土地理院、気象庁等)へ

また、防災ナマズンの登場は行事には欠かせないものとなりました。私自身もナマズマンとしての活動は100回以上。ナマズマンからみる子どもたちの姿は、かわいいもので特に幼稚園や保育園での啓発には、お母さんと共に抜群の啓発の盛り上がりを得ました。14年度から5年間1260名のリーダー養成も終了、19年度から各市町村へ移行したが勢いがなく、20年度からAPLAでの”防災リーダー養成塾の開講”の機会を得、21世紀を創るみかわの助成金をいただき開催。その後モリコロ基金を基に防災リーダー養成塾の企画・運営に携わりました。



第1回1泊研修の旅 11名 幼稚園での鳥山さんと早川ズマン あいち防災リーダー養成塾開講

太田さん始め、Hさん、Kさん、Iさん等の協力の中、講座開講となりAPLA会員の増強につながりました。防災リーダー育成指導テキスト「災害図上訓練と自主防災活性化演習」の企画編集をさせていただきました。このテキストは、現在も継承されています。

太田会長から2代目会長に後押しされ6年間指揮させていただきましたが、将来を見据え、APLA会員は、すべてがリーダーゆえに、会長職は各ブロック2年間の持ち回り制を提案したところ、快く理解が得られ3代目に青木さんが“防災功労賞”を安倍首相から頂戴していただき、続いて4代目に尾関さん、5代目に藤井さん、6代目に岡田さん、7代目原さんへと継承いただいております。感謝！感謝です。

私からは、会長6年間を後方支援をしてくれた今は亡き鳥山一三さん（車番10・13）に、心からの感謝状を贈らせていただきます。

また、この時期に支えてくれたのが、名古屋の藤井さん、福和教授公認“耐震化手動ぶるる・電動ぶるる”は、家屋の耐震啓発の欠かせないモデルの制作となり、子どもたちにも大人気！一級建築士の野村さんの“耐震化相談会”と相まって、「備えの基本：①家屋の耐震化、②家具転倒防止、③ガラス飛散防止フィルム貼り」の啓発と実技へとレベルアップしました。ガラス飛散防止フィルム貼りは、今や伊藤勲さんの十八番の啓発ともなりました。これらの事業活動が功を奏したのでしょうか、継続的な家具固定啓発活動こそが“家具固定率を上昇させています。感激です！今後も継続していただきますようお願いいたします。

“タンスぶるる”による啓発活動もH26年からの記録を紐解くと6年間平均年120回以上啓発させていただく場をいただき感謝。その後も海部の水谷さん、三河の岡田さん、名古屋の伊藤さん等も色々企画・工夫して活動を頂いています。頼もしい存在であり、感謝です！

お名前が掲載できなかった方々の出会いも啓発活動に支えになりました、感謝申し上げます。

会長職を退任して、防災啓発の後継者として岡田公夫さんと伊藤勲さんにバトンタッチさせていただきました。これからは、一会員として“防災・減災伝道士”として支援してゆきます。



ガラス飛散防止フィルム貼り 伊藤講師

家具固定施工啓発 岡田講師

後継者へのバトンタッチ

(2) 三代目会長当時 平成 26 年・27 年頃を省みて

第3代目会長 青木 八束

あいち防災リーダー会は平成 15 年創立直後から太田貴代子初代会長、早川澄男2代目会長の卓越したリーダーシップにより、組織の基盤も、対外的信頼度、認知度も順調に推移して参りました。



平成 23 年には防災担当大臣表彰、24 年には当時の県防災局との共同覚書締結、県知事表彰を受けるなど、当局との信頼関係を実感した次第です。

私はこの間、21 年度・22 年度は本部事務局として、23 年度から 25 年度は副代表として計6年間、早川体制のもと県当局との関りを学びました。



【完成直後の名大減災館 総会】

平成 26 年度定期総会にて、第3代目会長を拝命致しました。

新制度として、早速下記3案を提案、賛同を得て今日に至っております。

① 会長の任期2年による輪番制の確立

6ブロック 12 年で1巡が妥当かと、3年任期、1巡 18 年では長過ぎる。

② 年間6回の役員会・定期研修会を輪番制で担当する。

当時の APLA の対外的な評価は多分に太田先輩、早川先輩の卓越した率先垂範の手腕によるものにて、組織としては機能不足感もありました。

一方では、6ブロック・会員 600 余名による全県下に亘る組織は魅力です。

組織の活性化（6ブロック全体で機能する事）を促すためにも輪番制の導入です。

③ 当局への窓口として啓発本部を新設、早川前会長を啓発本部長とする。

当局との共同覚書締結後、年々依頼事が多くなっている。的確な受手が必要。

(ア) あいちなごや強靱化共創センターの幹事団体として（防災人材交流センター）

(イ) 家具固定推進員派遣事業 など主要イベントへの防災啓発出展

(ウ) 防災教育センター体験講座 講座委嘱

(エ) 防災減災カレッジの講師（地域防災コース 第3講 DG NPO 太田講師）

（防災指導講座 身近なものでできる防災対応 APLA 研修部）

※ APLA 会員数の推移 平成14年度～平成27年度まで

- * 会員は 18年度に716名 とピークを記録。
- *19年には尾張ブロック会員数過多となり、東西に分割した。
- * 21年、22年は異常に退会者が多く 知多事変?の影響と言われている。
- *20年～23年は防災カレッジ中断、それに代わるあいち防災リーダー養成塾開校効果。
- * 24年から県の新防災減災カレッジ再開の影響で。
- *その後、養成塾は県主催防災減災カレッジ地域防災コースに移行。

<参考資料 会員数の推移 創立時平成14年～27年(2002年～2015年)>

初代 太田会長					2代目早川会長					3代目青木会長				
年度	加入	退会	会員数	備考	年度	加入	退会	会員数	備考	年度	加入	退会	会員数	備考
14	140	0	140	第1回防災カレッジ	20	68	13	709	早川会長へ					
15	174	0	311	6月発足太田会長	21	100	*104	705	知多 保坂代表 辞任関連					
16	161	0	472		22	92	*153	644						
17	186	64	594		23	111	74	681	防災担当大臣賞					
18	195	73	716		24	37	38	679	防災局と 共同覚書締結					
19	0	62	654	尾張ブロック 東西に分割	25	39	38	680	県知事表彰					
					26	31	59	652	青木会長へ 6ブロック輪番制					
					27	45	31	666	内閣総理大臣賞					

※ 定期研修会 6ブロック輪番制による効果

ブロックごとに内容に特徴が出て、広い視野で知識の習得ができる。
地域ごとに参加しやすくなる。

<参考資料 27年度定期研修会 実績一覧表>

担当ブロック	開催日	曜	場 所	研修内容
あま	5月31日	日	甚目寺公民館	家具の固定講習会
三河	8月 2日	日	東部交流センター	防災講座「聴覚障害者への配慮」
知多	10月 4日	日	海上保安庁の業務	中部空港海上保安航空基地
西尾張	11月 30日	月	豊田合成株式会社	企業防災視察「豊田合成ほか」
東尾張	1月31日	日	レディヤンかすがい	クロスロード「防災気象情報編」
名古屋	3月 21日	祝	港防災センター	吉村 隆講師(元消防士)の防災談義

※ 内閣総理大臣賞防災功労賞 授賞式典 平成 27 年 9 月 7 日 首相官邸にて

表彰理由「永年に亘る防災思想の普及」「防災人材の育成」会員一同の日頃の努力が評価されました。

在任中の一番印象に残る事項はやはり首相官邸での授賞式典への出席・祝賀会での著名政治家との対面懇談でした。安倍総理との握手、山谷えり子防災担当大臣、中谷防衛大臣、太田国土交通大臣他との歓談は心に残っています。



【安倍総理を中心に記念撮影】

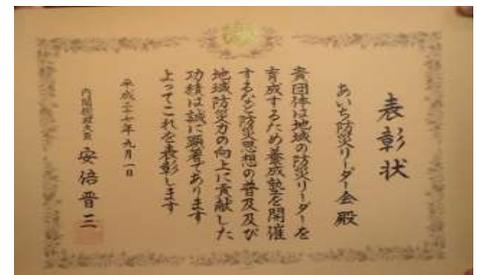
丁度この日は沖縄辺野古移転問題で時の人、沖縄県知事翁長氏が官邸ロビーで記者団に囲まれている時間帯と重なり、政治の中枢・日本の情報源であることを実感しました。



【首相官邸での表彰式典】



【閣僚の華 山谷えり子防災担当大臣と】



【表彰状と APLA 会員に配られた記念品】

予定時間 17:30 閣僚は着席するも、何の説明もないまま待機。

1800 になって漸くして安倍総理が到着し、式典開始。首相は分刻みの行動かも…。

祝賀会では、菅官房長官の音頭で清涼飲料による乾杯後、受賞者と政府関係者との懇談の場となりました。同行した藤井広報部長と共にしばし歓談の輪に…。

災害が多かった前年の平成 26 年度、広島土砂災害、御岳の噴石災害、南木曾土石流災害、長野県北部地震などの災害現場で活躍された地元自主防災組織、消防団、自衛隊が主たる表彰対象。

※ 当時の視察研修の旅の思い出

この時知り合ったご縁で、翌平成 28 年長野北部地震激震被害地区視察十町温泉十南木曾土石流被災地視察の一泊研修の旅を企画・催行しました。白馬山麓の激震部落で犠牲者 0 の地域防災力。南木曾は”白い雨”、空中で水滴が激しくぶつかり合って白くなる激しい雨の降る処と知る。当時の一泊研修旅行は毎回 40 名程の参加があり、常連ファンもあって人気の行事でもありました。特に印象に残っているのは第 10 回稲村の火の館十白浜温泉十紀伊半島津波被災地めぐりの旅でした。三重大学川口先生を囲んでの防災すくめの 2 日間、39 名参加。

川口先生の挨拶・開ロ一番「私の地元には知らないようにして下さい、それは、地元では参加していないのにあいち防災リーダー会の旅行に同行したとバレルとマズイ。今回は早川会長の熱意に負けて参加させて頂きました、異例の事です。あいち防災リーダー会の三重ブロックとして参加です（笑い・・・）

恒例のホテルの部屋での二次会&防災放談会は磊落な川口先生を囲んでの楽しい一時でした。そんな楽しみながら学ぶ研修会を又、企画して下さい。



【浜口吾良記念館の前で】



【二次会でも防災談義 立姿の川口先生】

※ 高齢者の3老規とは （下条町長寿会講話資料より引用）

どこの会合に行っても、乾杯の音頭とか、手締めとか指名される年代になりました。

高齢者の為の3老則、 日本版は岸信介元首相の3則

- ① ころばな
- ② 風邪引くな
- ③ 義理を欠け（無理するな）

さすが先進国米国ではタリツィ・E・Zツグ（かっこよく年をとる）が流行語であった由。

55年前その先頭に立っていたジヨウカ大統領第一秘書官のワ・カ・パ・ウ女史の3則

- ① 招待を断るな
- ② 人をもてなせ
- ③ 恋をしなさい

消極的と積極的 日米では対照的ですね。 日本の高齢者はやはり岸派ですかね…。

(3) 任期中、記憶に残ったイベント

5代目会長 藤井 芳宏

私が5代目会長になり（正式には定時総会の承認をもらっていないので5代目候補者だった）いきなり皆様にご迷惑とご無礼をかけることになりました。今でも申し訳なく思っております。定時総会の開催日1週間前に、結石の手術を終え退院できるように予定していたのですが、アクシデントが起き、感染症で高熱が続き入院が長引いて、総会に出席できなかったからです。役員の皆様方がフォローしてくださり、感謝一杯でした。

会員数が減りつつあったので会員拡大を目指して、又地域の防災力向上のために活動することを目標に掲げて、スタートしました。実質は、4月末の防災人材交流セミナー実行委員会・愛知協働社会推進協議会から復帰しました。

会議に出席して、あいち防災リーダー会の存在感の大きさに驚き、その重さを感じ、リーダー会をここまで大きくされてきた歴代会長及び諸先輩方に改めて敬意を表しました。

任期中に印象に残った、主なイベントは以下の通りです。



2018年の一泊研修の旅

西日本豪雨で行き先急遽変更神戸で宿泊、道中スーパーで弁当調達、宿泊する予定だった、里湯ひととき夢の井、2日目の姫路城見学中止（通行止めになった？）

2018 つなぎ舎 オアシス21

巨大地図上でワークショップ地域ごとの震度、液状化などの災害リスクや地域の特徴など解説があり、巨大地図に自宅をマーク。その場所で福和教授から説明を聞いたり、先生から鋭い質問もあり答えに窮する参加者もありました。違った角度で自分の住む地域が見られたのではないのでしょうか。夜の部では巨大なプロジェクションマッピングを使った研修。



2019年8月伊勢湾台風から60年のつどい ウィルあいち

東海地方を中心に5098人の死者・不明者を出した、大災害の記憶と教訓をどう引き継ぐか。当時の被災者から話を聞きました。

当会からも青木八東氏の体験談・・・当時岐阜大4年生、午後5時過ぎに新岐阜駅から名鉄の特急に乗ったその時は快晴、なごや駅で運休、JR 蟹江駅から中川区の自宅まで2 km、風速35m 雨の中、びしょ濡れで帰った・・・水に浸かった。



ぼうさいこくたい2019NAGOYA

あいち・なごや防災フェスタ同時開催



国内最大級の総合防災イベント。2016年より毎年実施し、2019年は名古屋市で南海トラフ地震の発生が予測される地域であること、大規模災害発生時においても中部圏の社会・経済活動が維持されるための産官学を超えた共助の枠組を持っていること、2019年は



災害対策基本法策定のきっかけとなった伊勢湾台風から60年であることより、「防災推進国民大会2019」の開催地となりました。

あいち防災リーダー会にとっても設立以来の一大イベントでした。年初から毎月実行委員会があり、内閣府の打ち合わせ会議、名古屋市のぼうさいこくたい2019関連行事実行委員会、例年やっている防災人材交流セミナー「つなぎ舎」実行委員会、とあって最初は訳が分からず戸惑いでしたが、会議を重ねる毎に理解できてきました。

ぼうさいこくたいで感じた事は、出店応募について出店数が1.6倍近くあったのに全ての出店希望者を受け入れてもらった。(ブースが小さくなりましたが) 粋なはからいと感じました。

参加者は13,000人。

第一回本部研修会(西尾張B)「避難所運営マニュアル改正の解説と防災リーダーに期待する」

ここで大阪府北部地震のブロック塀倒壊で亡くなった児童の記事を挨拶で紹介した所、それは私ですと、中日新聞に寄稿された岐阜大学特任准教授、村岡治道様が出席されていて、出会いにびっくりでした。

2019年一泊研修の旅

昨年のリベンジ、里湯ひととき夢の井(泊)、姫路城見学ができた事など印象に残っています。

任期中に大きなイベントを体験させていただき、光栄に思った事、勉強させていただきことに感謝しております。



最後に、あいち防災リーダー会の発展と皆様のご健康を、祈念いたします。

(4) Covid-19まん延のなか 6代目会長として振り返る

第6代会長 岡田 公夫



5代目会長の藤井芳宏さんから、APLA 会長を引き継いだのは令和2年4月からの2年間です。“ovid19”の出現により、活動の乏しい2年を過ごすことになりました。年明けから5月まで予定された行事は全て中止。APLA 総会は2年続けて書面決議となり、当初は県への登庁も自粛です。局長表敬訪問、県総合防災訓練も2年中止でした。会長としての唯一の挨拶が退任時でした。そんな暗い2年間で今後のAPLAの活動をどうすべきか、会員の高齢化・減少など悩みは多かったです。

幸い、早々に東京の知人から Zoom に誘われ、Web 会議の存在を知りました。「自宅から仲間と共に学び災害に備え元気に暮そう！」それから自分も Zoom を学び4月からはAPLAでの井戸端会議の構築、8月からは本部研修会の配信を伊藤研修部長と見よう見まねで始めました。会場毎にWi-Fi環境や音響設備が異なり、慣れない配信はトラブルも多く、聴講された方には不愉快な事も多かったと思います。SNS全盛時代、会員の皆様には、双方向配信の手段としてZoom会議や研修会への参加をお薦めします。

防災教育センターでの家具固定啓発の動画製作は楽しい思い出です。出演された三浦さん、横江さん、伊藤研修部長には感謝いたします。“若い女性が一人で家具の固定ができる”を目指しました。QRコード付きチラシを配布し、啓発活動で市民に思いを伝えています。防災減災カレッジでのハイブリッド配信も苦労した分思い出深いです。オンラインで自宅から様々な研修会や集まりに参加できる時代になってきました。啓発部長として今後も情報配信に努めて行こうと思います。

山古志村のAPLA研修旅行への参加から本部に関わるが増えました。一般の人では体験できない施設や先生の話を見聞でき幸せでした。多くの会員の方々の参加できる企画や、一般市民への発信を若い会員を中心に開発できればと考えています。今後も感染症など社会情勢を見極めながらの活動になります。

危惧されています、幾多の災害から地域の方々が守られるよう、事前の働きかけは益々重要になってきます。未来ある子どもたちには特にしっかりと語りたいと思います。自ら考え行動できるように、印象深く効果的に防災が伝えられるように、会員の皆様と知恵を絞っていきたいと思います。

私も健康に心がけて、皆さんと一緒に、いつまでも楽しんでお節介な活動ができ。幸せな老後になることを希望しています。

(5) あいち防災リーダー会 (APLA) 20周年を迎えて

第7代会長 原 真理



あいち防災リーダー会 (APLA) 20 周年を記念しまして、これまで APLA の活動を支えて下さった関係者の皆様、会員の皆様、そして何よりも APLA を牽引して下さった歴代の会長を務められた方々、本部役員の皆様、ブロックを支えて下さった歴代ブロック代表及び、ブロックの役員の皆様に深く感謝を申し上げます。

APLA は平成 14 年から開講された愛知県防災局主催の『あいち防災カレッジ』1 期生の皆さん 140 名により、平成 15 年 6 月 22 日にウィルあいちにて設立総会が開かれ、太田貴代子会長のもとスタートしました。

当時、名古屋大学大学院の福和伸夫教授（現 名誉教授）にリーダー会の参与をお願いし、現在に至っております。

私事ですが、私が防災に関わることになったきっかけは、平成 20 年に居住地の自主防災会の立ち上げメンバーにお声掛けいただいたことからです。当時は手探り状態で、地域防災について様々なことを勉強しました。そして、もっと学びたいということで美浜・南知多防災の会に入会。

APLA

A	ichi	『あいち』
P	reparation	『用意する』『準備する』
L	ea	『リーダー』
A	ssociation	『組織』

そんな中、地域の防災訓練で中学生約 100 人を集めてクロスロードをやることになりました。ファシリテーターを 15 人ほど集めなくてはならず、困惑していたところ、当時既に APLA 会員であった防災仲間の方に知多ブロックを紹介していただき、何度か役員会に出向き、ご協力をお願いしました。そして、このクロスロードは大成功に終わることができました。これもひとえに知多ブロック会員の皆さんの快いご協力があったからと、とても感謝しております。

この時の APLA の組織力と、それぞれの方の防災に対する知識や熱い思いに触れ、自分も APLA に入りたいと思い、NPO あいち防災リーダー育成支援ネット主催の、あいち防災リーダー養成塾を受講し、晴れて APLA の会員となったのが平成 24 年。今年で 11 年目となります。

創立 20 周年を迎える APLA の中で、の会員歴は短いですが、APLA の会員であることに誇りを持ち、微力ながらも自分の力が地域防災力向上につながり、災害が起きた時に一人でも多くの方の命が助かるようにと思い、活動を続けています。

これからも APLA の仲間を増やし、会員の皆さんが一丸となって『明るく、楽しく、元気よく』防災・減災の啓発に取り組み、自己研鑽に務めていただけることを期待しています。

[3] 平成25年度～令和4年度を振り返る



防災ナマズンと記念撮影

平成25年住まいと耐震博覧会



平成26年あいち学びネットワークフォーラム



平成27年愛知医科大学
防災セミナー

講師 早川澄男本部啓発部長



防災ナマズンは誰だ



額田郡の知り合いから提供された猪肉汁

平成28年
庄内川クリーンキャンペーン
と炊き出し訓練の風景



婦人会の皆さんの手作り塩おにぎり

平成29年度 愛知県・春日井総合防災訓練



大村知事と筆者



家具転倒防止のモデルを見る



相津防災局長と大村知事



伊藤市長にAPRA PRチラシを渡す



平成30年 愛知県・津島市総合防災訓練



家具転倒防止啓発



防災グッズ展示



ロープワーク

令和元年 学友・青少年交流シンポジウム



防災講座 早川講師



新聞紙スリッパ作り



紙パック防災笛作り

令和2年 フィールドスタイルジャンボリー



得意の術で魅了



缶バッチは子供に大人気



アンケート中



起震車も大人気

令和3年 家具固定啓発ビデオ制作



ディレクター岡田と主演女優



和んだ雰囲気撮影風景



本番は真剣です

令和4年 防災減災カリッジ〈啓発指導講座〉



ポリ袋の雨合羽を着てご満悦!!



定番の新聞紙スリッパ



Zoom 配信用資機材

「APLA20年間の歩み」作成委員会メンバー

	原 真理	あいち防災リーダー会会長		
野村 昭男	名古屋ブロック代表	水戸部 茂樹	東尾張ブロック代表	
尾関 博	西尾張ブロック代表	河津 博史	海部ブロック代表	
岡田 公夫	三河ブロック代表	坂川 勇	知多ブロック代表	
藤井 芳宏	渉外部長	青木 八束	相談役	
河村 文雄	事務局長	則竹 康伸	広報部長	

編集後記

平成15年設立スタートした、あいち防災リーダー会も令和4年度にて20周年を迎えることとなりました。10年前の平成25年には設立10周年を記念して「APLA10年の歩み」が発刊され、今年度は20周年を記念し「APLA20年の歩み」を発刊する事となり、その大役を任せられました。当初は、どこから手を付けたらいいのか分からず、毎日が試行錯誤の連続でした。

そんな私に救いの手を差し伸べて頂いたのは、各ブロックの代表。青木相談役、藤井渉外部長、河村事務局長そして原会長でした。そのお陰をもちまして何とか総会までに、完成する事が出来ました。

紙面上ですが「APLA20年間の歩み」作成委員会の皆様には心より感謝申し上げます。

内容的には編集上、記事を提供して下された筆者の思いとは異なる部分があると思いますが、この10年を振り返り、更なる10年に向けての活動の糧になればと念じつつ、編集後記とします。

令和5年4月吉日

あいち防災リーダー会 本部広報部長

「APLA20年間の歩み」作成委員長 則竹 康伸